

令和4年度 モビリティコンソーシアム モビリティ利活用PT

第2回2022年9月13日

幕張新都心
MAKUHARI
NEW URBAN
CENTER

第2回の目的とアジェンダ

目的とアジェンダは以下の通りです。

目的

1. 回遊性向上施策の実現にむけた課題の洗い出し
2. 回遊性向上施策のMaaS連携について検討



	アジェンダ	発表者	時間
15:00-	イントロダクション		
	本日の参加者・目的の確認	-	5分
	第1回の振り返り	事務局（千葉市）	5分
15:10	回遊性向上施策の実現にむけての課題検討		
	選定したアイデアと選定理由の共有	事務局（デロイト）	10分
	グループワーク		45分
	全体共有		10分
16:15	回遊性向上施策のMaaS連携について検討		
	今年度のMaaS実証について共有	ドコモ様	10分
	グループワーク		20分
	全体共有・事務連絡		10分

イントロダクション

本日の出席者は以下の通りです。

PT参加団体名（順不同）

東日本旅客鉄道株式会社

コストコホールセールジャパン株式会社

OpenStreet株式会社

京成バス株式会社

株式会社スパサンフジ 幕張温泉 湯楽の里

ビー・トランセホールディングス株式会社

イオンモール株式会社

三ツ矢エミタスタクシーHD株式会社

一般社団法人千葉県タクシー協会

イオンタウン株式会社

神田外語大学

株式会社ヴァル研究所

損害保険ジャパン株式会社

N T T ドコモ千葉支店

シャープ株式会社

公益財団法人日本サッカー協会

株式会社千葉ステーションビル

イオンコンパス株式会社

本日も欠席団体名（順不同）

株式会社 J T B コミュニケーションデザイン

株式会社 幕張メッセ

株式会社建設技術研究所

小田急電鉄株式会社

久留米工業大学

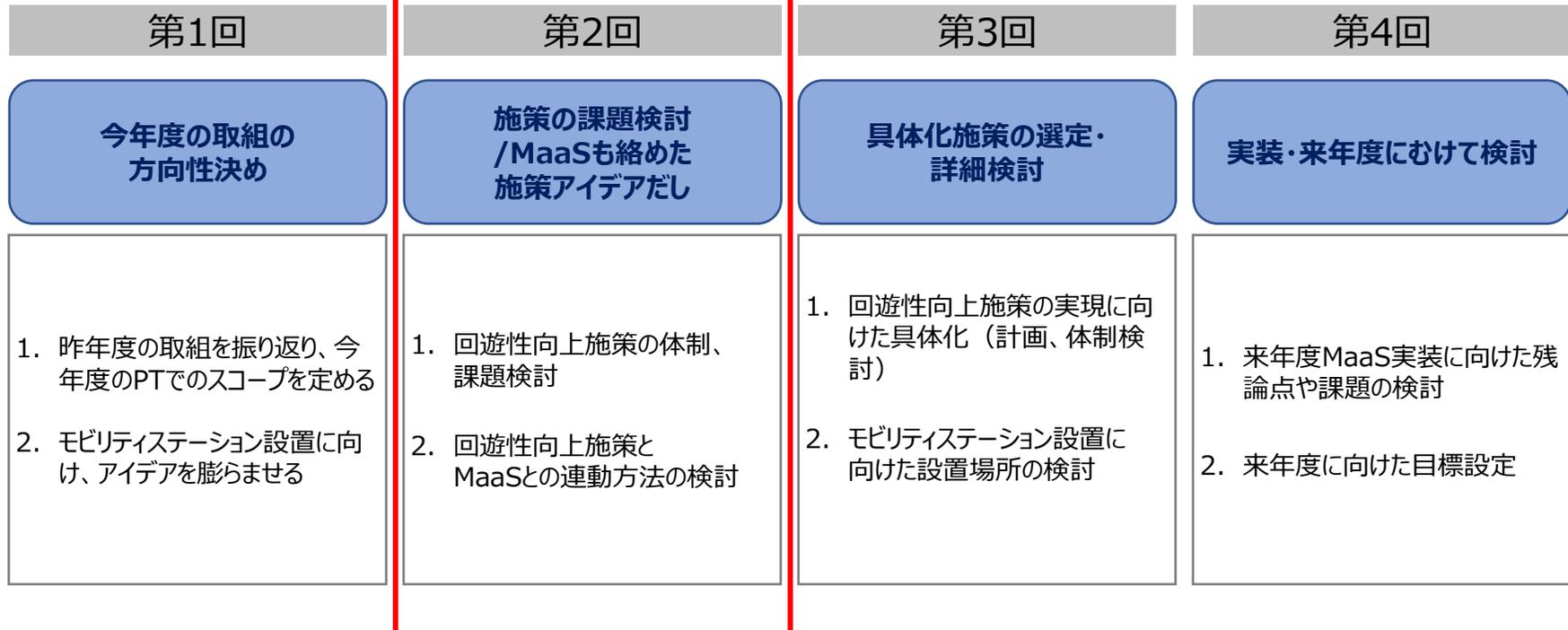
長谷川工業株式会社

公益社団法人千葉市観光協会

PT全体の予定

全4回を通じて、施策の実現にむけ、施策の具体化、実行を進めます

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
マイルストーン			WG #1	PT #1	PT #2		WG #2		PT #3		PT #4	WG #3



第1回振り返り

移動に対する課題として、大きく以下の5つの意見が挙げられた。

<h3>ワークの前提</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理想の状態：来訪者が一施設のみならず、複数の施設に来訪し幕張新都心が活性化すること ■ 対象者：買い物を目的に、来訪する方々
<h3>問い</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業施設関係者/運送業の方から、現状の移動に関する課題感を共有する
<h3>施設のスケールが大きい</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ■ イオンモールは大きいので、特に慣れない来訪者はイオンの中だけでも移動が難しい。特に、徒歩移動は厳しい。 ■ 施設一つ一つが大きく、充実しているので回遊性が低い。 ■ 幕張メッセでのイベント終わりにそのままお客さまが帰宅してしまう。 ■ メッセのイベント後やスタジアムの試合後に商業施設に来てもらうのが目指したいが、長時間のイベントで疲れてしまい食事を取って終わるのが通常。
<h3>街がヒューマンスケールでない</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ■ バスを使うには近く、歩くには遠いといった立地の施設が多い。 ■ 現状イオンは8割が自家用車利用客で、三井のアウトレットモールや湯楽の里への回遊性がない。 ■ ペDESTリアンデッキがあたりなかったり歩きにくい上に歩いていて楽しいところがない。
<h3>回遊性を高めるための適切なモビリティやパーキングがない</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ■ マイクロモビリティは荷物があると厳しいので、荷物までを考えた移動をデザインする必要がある。 ■ 湯楽の里の駐車場は少なく、また利用者が増えているので開放は難しい。
<h3>時間帯によっては混雑・渋滞が生じる</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ■ コストコ渋滞をはじめ、道路の渋滞が非常に多い。また、コストコ周辺は土日が非常に渋滞し、バスが最大で40分遅れになる。 ■ 駐車場・周辺道路が混雑しているとそれだけで疲労するので回遊性が低下する。 ■ イベント時の駅構内及び駅周辺の混雑がひどい。 ■ 朝、夕の移動が多く、昼の利用率が低い。
<h3>広報ができていない</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 幕張の浜の良さがあまり伝わっていないので、モビリティを使って千葉の魅力を伝達する必要がある。 ■ キックボードや自転車のシェアリングサービスも行っているが設置場所が悪く、利用者に認知が追いついていない。また、利用者に移動手段や方法の情報が効果的に発信できていない ■ 来訪者にとってどこに何の施設があるかわからない。

第1回振り返り

自家用車での来訪者に対しては、主に駐車場やモノの移動への工夫が必要だという意見が挙げられた。

問い		
パーク&ライド 〔自家用車での来訪〕	ゾーニングの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ 移動に関する課題を解決し、理想の回遊性を目指すためには、どのようなモビリティをどのように活用できるか。 ■ シェアサイクルでもキックボードでも、利用エリアを限定する。 ■ 複数のモビリティが選べたり、乗り捨てができたりするようにする。 ■ 休日だけでも自家用車をなしにして、マイクロモビリティだけで動ける歩行者天国ならぬモビリティ天国のエリアをつくる。 ■ 幕張のリゾート感と土地が平坦であるため、マイクロモビリティで移動しやすいのでは
	駐車場・ポートの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ 駐車場の空き情報を早めに共有し、予約できるシステムを構築する。フリンジパーキングの導入。 ■ イオンさんの端の方にある駐車場の余りを利用する。→一般利用がないので、バスの利用者を融通することはできるのではないか。 ■ ポートを増やすことが絶対条件だ。 ■ 循環バスの車内に自転車の貸し借りポートを設置すれば、土地を使うことなくポートを設置でき、利用者の利便性も上がる。
	モビリティ同士・モビリティと施設の横連携の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ 目的を持った人と、ぶらぶらしたい人でユースケースを分ける。特に何か所か回りたい人向けには事前に移動の案内をし、効率的にモビリティと組み合わせる移動し、買い物をできるようにするとよいのでは。 ■ 例えば幕張メッセやマリスタジアムでイベントがあると、それを目的とした来訪者が多いので、そのテーマに合わせたイベントを各施設で実施したり、グッズ販売など連携できると良いのではないか。
	モノの移動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ 荷物が大きいとモビリティを利用することが難しいので、自動配送ロボで物を運んでくれる機能があるといい。 ■ 移動に合わせて荷物をいつでも回収できるような仕組みがあると便利。さらに施設を移動した駐車場まで運んでくれるようなサービスがあると良いのでは。（ただそのまま回遊せず帰られてしまうリスクあり）

第1回振り返り

鉄道での来訪者には様々なユースケースへの柔軟な対応が、新規のアイデアとしては街全体の連携や家族連れがキーワードとして挙げられた。

問い		<p>■ 移動に関する課題を解決し、理想の回遊性を目指すためには、 どのようなモビリティをどのように活用できるか。</p>
モビリティライド 【鉄道での来訪】	利用者へのインセンティブ制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 渋滞緩和のため、買い物したお客さまの送迎を無料にする電子クーポン施策を実施し、できるだけ公共交通機関を利用してもらえるような仕掛けづくりをする。 ■ 京葉線と海側道路の間は一般車通行禁止として専用バス等を走らせ、一日乗り放題券等を安く提供する。 ■ イベントチケットを販売する際に混雑緩和を図るため、目的地より遠い駅で降りたお客さまに対してインセンティブをつける。
	様々なユースケースに対応したモビリティの設置・提案機能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 短期間での滞在であれば機動力のあるモビリティ、長時間滞在であればもう少しゆったりとしたモビリティを利用するなど、利用者のニーズに合わせた施策やモビリティ提案ができるのではないかと。 ■ 自転車的な機能を持っていて雨の日でも利用できて、かつ免許がない人でも使えるものがあるとよい。 ■ 新駅と海浜幕張をつなぎ、途中の施設に立ち寄れるようなモビリティがあるとよい。
	ゾーニングの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ エリアをモビリティのテーマパークのように考える。 ■ エリア内の道路を一方通行にして自然回遊させる。
それ以外の新規のアイデア	街全体をモビリティでブランディング	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設やモビリティに関する案内など、街全体での仕掛けづくりを行う。 ■ 楽しい移動をデザインし、モビリティを目的として来訪してもらおう。 ■ 街に来て楽しいと思えるような気分が上がる仕組みを作ればよい。カラフルで見えて乗って楽しいモビリティやインスタ映えするスポットなどを用意することでマスコミなどにも気づいてもらいやすいのでよい。
	家族連れが利用しやすいモビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 昨年度実証では、親が運転し、子供を前に乗せて走るようなパーソナルモビリティの利用により子供も飽きずに移動を楽しむことができ、長時間の滞在や周遊しやすくなったという声を頂いた。 ■ 家族連れの場合、子供はキックボード等だと運転が難しいので、自動運転バス等で連れて行ってもらえるとうい。

第1回振り返り

モビリティステーションを設置すべき立地というテーマについて、目的に応じた設置や移動ニーズに応じた設置という意見が挙げられた。

問い

■ 来訪者の回遊性向上のため、どのようなモビリティステーションを設置するか

立地（配置）	駐車場
	駅前
	歩道・バス停
	需要に応じた設置

- 駐車場など、家族連れなどでも簡単に歩いていける距離にあると良いのではないか。
- イオンモール・幕張メッセの駐車場に設置。→キックボードなどは買い物後は荷物があるので使えないため、これらのスポットまでの道のりに使うことをイメージ。
- 駅からモビリティステーションまで距離があると結局移動が大変なので、駅前に設置すべき。駅前に設置することで移動選択肢の供給を目指す。
- 来訪者への視認性という観点で駅前に設置するのがよい。
- 歩道などを利用しつつ、いつでも返せることを念頭においた配置を工夫すべきだ。
- 幕張新都心は歩道が広いので、街角を利用するのが活用を促す方法としてよいのではないか。→ある程度歩道にスペースがあるエリア、またベイパークなどの住宅地への設置がよいのではないか。
- 回遊性を重視し、路肩を削ってバス停に置くことも考える。
- 通勤にマンションエリアから駅まで使っている人は多いのかを検証し、需要データに基づくポートの配置場所や設置台数を考える。
- イベントに応じた臨時ステーションを設置する。
- エリアの中心部ではない場所にも必要だ。
- 機能によって設置場所も変わるのではないか。
- 施設間の移動に利用するのであれば、第一目的地にあるべきだ。

第1回振り返り

モビリティステーションに備えるべき機能というテーマについて、認知拡大のために通行人の視覚に訴える機能や利用する人にとって便利な機能が挙げられた。

問い

■ 来訪者の回遊性向上のため、**どのようなモビリティステーション**を設置するか

機能面

認知拡大・視認性向上のための機能

- デジタルサイネージを活用し、周辺マップ、商業施設案内や、現在地から各モビリティを利用した場合の所要時間が表示されるとよい。また、地域広告との連携や利用しているイメージが見た人によくわかるようなPRができるとうい。実際、他地域ではバスとデジタルサイネージを組み合わせた交通網の再構築に取り組む事例がある。
- 顔認証で行き先や目的に合ったモビリティのレコメンド機能があれば多くの人に興味を持っていただける。→特定のモビリティが不足しているということがないようにする。
- 遠くから見てステーションがわかるような仕組みがよいのではないか。→例えば、ステーション・自転車ともにカラフルにするなどの工夫。

充電スポットとしての機能

- 単独あるいは駐車スペースを兼ねた充電設備を用意し、利用者が途中で充電できるようにしておくとういのではないか。
- 災害時の非常電源として利用できるとよい。
- 電気自動車の駐車・充電・自転車貸出を組み合わせたポートを設置する。また、EVカーシェアに電気を溜めて自転車に充電できるようにする。

他モビリティとの連携機能

- 各拠点を繋ぐ周遊バスも発着できるステーションがあればよい。

休憩施設としての機能

- トイレや休憩スペースなどを + a の要素として設置すると賑わいが生まれてよいのではないか。

利用ハードル低下のための機能

- 利用者の荷物を安全に保管したり、配送できる機能があればよい。

回遊性向上施策の選定

昨年・前回はアイデア出しを行いました、
今回は実装にむけての体制づくりにむけた課題の洗い出しを行います



1 アイデアの芽

回遊性向上を目指すアイデア出しをする
アイデアの中で現実的なものを選択する



2 実装に向けて関係者が動ける体制をつくる

コンソーシアム企業の皆様が実施したいこと、協力できることから体制をつくる
実装に向けた現実的な課題を洗い出す



3 実装に向けた具体化・計画策定

実装に向けた協力体制から、施策の具体化
実装に向けた計画を策定

回遊性向上施策の選定

皆さんから出していただいたアイデア（2021、2022の第1回）を、実現性・回遊性向上へのインパクト・MaaS連携の観点から評価し、6つの施策に収斂

2021年度の14のユースケース

2022年度第1回PTでの24のアイデア

		ルや周辺の商業施設に立ち寄る。	稱張メッセ⇔イオンモール商業施設	・オンデマンド交通・シェアサイクル・循環バス
学生	学校習入	なく、おしゃれな自	学校⇔自習スペース 飲食店	・シェアサイクル・電動キックボード・マイカー(親の送迎)
ティーン来街者	「エンのため	ティが選べたり、乗り捨てができてりする。	自家用車をなしにして、マイクロモビリティだけで動ける歩行者天国ならぬモビリティ天国のエリアをつくる。	
		ティのテーマパークのように考える。		
子育て世代	子供を食事、	ゾーニングの工夫	モビリティライド	エリア内の道路を一方通行にして自然回遊させる。
		街全体をモビリティでブランディング	パーク&ライド	シェアサイクルでもキックボードでも、利用エリアを限定する。
主婦	習い事や子供	それ以外の新規のアイデア		施設やモビリティに関する案内など、街全体での仕掛けづくりを行う。
動き盛り世代	アポイント食事	街全体をモビリティでブランディング	それ以外の新規のアイデア	楽しい移動をデザインし、モビリティを目的として来訪してもらう。
家族連れお父さん	妻と子供	街全体をモビリティでブランディング	それ以外の新規のアイデア	街に来て楽しいと思えるような気分が上がる仕組みを作ればよい。カラフルで見えて楽しいモビリティやインスタ映えるスポットなどを用意することでマスコミなども気づいてもらいやすいのでは。
		モノの移動の工夫	パーク&ライド	荷物が大きいとモビリティを利用することが難しいので、自動配送ロボで物を運んでくれる機能があるといい。
		モノの移動の工夫	パーク&ライド	移動に合わせて荷物をいつでも回収できるような仕組みがあると便利。さらに施設を移動した駐車場まで運んでくれるようなサービスがあると良いのでは。(ただそのまま回遊せず帰られてしまうリスクあり)
3世代家族	イオンおむ。子と祖父(イオン)	モビリティ同士・モビリティと施設の連携の工夫	パーク&ライド	目的を持った人と、ぶらぶらしたい人でユースケースを分ける。特に何か所か回りたい人向けには事前に移動の案内をし、効率的にモビリティと組み合わせで移動し、買い物ができるようにするとよいのでは。
		駐車場・ポートの工夫	パーク&ライド	例えば幕張メッセやマリスタジアムでイベントがあると、それを目的とした来訪者が多いので、そのテーマに合わせたイベントを各施設で実施したり、グッズ販売など連携できると良いのではないかと。
シニア	サークル	駐車場・ポートの工夫	パーク&ライド	駐車場の空き情報を早めに共有し、予約できるシステムを構築する。フリンジパーキングの導入。
		駐車場・ポートの工夫	パーク&ライド	イオンさんの端の方にある駐車場の余りを利用する。→一般利用がないので、バスの利用者を融通することはできるのではないかと。
シニア	「地域おひとり」で、第	駐車場・ポートの工夫	パーク&ライド	ポートを増やすことが絶対条件だ。
		様々なユースケースに対応したモビリティの設置・提案機能	モビリティライド	循環バスの中に自転車の貸し借りポートを設置すれば、土地を使うことなくポートを設置でき、利用者の利便性も上がる。
シルバー	「健康楽しみ」もに、地	様々なユースケースに対応したモビリティの設置・提案機能	モビリティライド	短期間で滞りであれば機動力のあるモビリティ、長時間滞りであればもう少しゆったりとしたモビリティを利用するなど、利用者のニーズに合わせた施策やモビリティ提案ができると良いのではないかと。
		様々なユースケースに対応したモビリティの設置・提案機能	モビリティライド	自転車的な機能を持っていて雨の日でも利用できて、かつ免許がない人でも使えるものがあるとよい。
シルバー	免許は物があ	様々なユースケースに対応したモビリティの設置・提案機能	モビリティライド	新駅と海浜幕張をつなぎ、途中の施設に立ち寄れるようなモビリティがあるとよい。
運転免許センターに来た方	免許更新帰って巡回す	家族連れが利用しやすいモビリティ	それ以外の新規のアイデア	昨年度実証では、親が運転し、子供を前に乗せて走らせるようなパーソナルモビリティの利用により子供も飽きずに移動を楽しむことができ、長時間の滞在や周遊しやすくなったという声を頂いた。
子供もいなくて友達もいない専業主婦他	バレンタイン遊び施設、	家族連れが利用しやすいモビリティ	それ以外の新規のアイデア	家族連れの場合、子供はキックボード等だと運転が難しいので、自動運転バス等で連れて行ってもらえるといい。
		利用者へのインセンティブ制度	モビリティライド	渋滞緩和のため、買い物したお客さまの送迎を無料にする電子クーポン施策を実施し、できるだけ公共交通機関を利用してもらえそうな仕掛けづくりをする。
		利用者へのインセンティブ制度	モビリティライド	京葉線と海側道路の間は一般車通行禁止として専用バス等を走らせ、一日乗り放題券等を安く提供する。
		利用者へのインセンティブ制度	モビリティライド	イベントチケットを販売する際に混雑緩和を図るため、目的地より遠い駅で降りたお客さまに対してインセンティブをつける。

- ### 【評価項目】
- 実現性
 - 事業性
 - 座組
 - 技術
 - 法整備
 - 回遊性向上へのインパクト
 - MaaSとの連携
 - 事業主体の有無

- ### 【評価者】
- JR様
 - NTTドコモ様
 - 千葉市

回遊性向上施策の選定

選定結果は以下の通りです。本日はこちらをもとにグループに分かれて検討を行います。

	選定アイデア	想定ユーザー	モビリティ例	回遊コース例
1	来訪者が訪れるイベント施設から周辺施設への回遊性向上 (海浜幕張エリア)	<ul style="list-style-type: none"> ■若者世代(来訪者) 	<ul style="list-style-type: none"> ■オンデマンド交通 ■シェアサイクル ■循環バス 	<ul style="list-style-type: none"> ■幕張メッセ⇔イオンモール・施設
2	日常利用している方むけに、商業施設内のスポットを連携させ、回遊性向上・パーク&ライドの推進	<ul style="list-style-type: none"> ■学生・サラリーマン ■来訪者 	<ul style="list-style-type: none"> ■シェアサイクル ■電動キックボード ■マイカー(親の送迎) ■循環バス 	<ul style="list-style-type: none"> ■学校⇔自習スペース・飲食店 ■幕張メッセ⇔商業施設・小売店・飲食店・テレワーク施設
3	家族などの複数利用者向けに、イオンモールと各商業施設を複数人が乗れるモビリティで結び、住民の回遊性向上 (幕張豊砂駅)	<ul style="list-style-type: none"> ■住民 ■子育て世代 ■3世代家族 	<ul style="list-style-type: none"> ■オンデマンド交通 ■シェアサイクル ■循環バス、循環小型バス ■小型モビリティ ■友人の車 	<ul style="list-style-type: none"> ■自宅・習い事教室 ⇔ イオンモール・飲食店・小売店 ■イオンモール⇔幕張海浜公園・湯楽の里 ■●●教室⇔湯楽の里
4	街全体でのブランディング/施設やモビリティに関する案内の充実を図ることで回遊性向上	<ul style="list-style-type: none"> ■来訪者、住民 	<ul style="list-style-type: none"> ■歩行者と共存可能な小型モビリティ(複数人乗車orパーソナル) 	<ul style="list-style-type: none"> ■バレンタイン通り⇔美浜プロムナード
5	シニアの方向けのコンテンツも導入し、安全なモビリティで回遊性向上	<ul style="list-style-type: none"> ■シルバー・シニア 	<ul style="list-style-type: none"> ■タクシー ■オンデマンド交通 ■循環バス ■リンスローモビリティ 	<ul style="list-style-type: none"> ■自宅⇔病院・クリニック・飲食店 ■コミュニティ施設(公園、メッセ、モール等)⇔小売・スーパー・クリニック ■自宅⇔地域貢献活動場所・飲食店 ■コミュニティ施設⇔飲食店・小売店
6	ポートの設置、ゾーニングの設置による回遊性向上	—	<ul style="list-style-type: none"> ■各マイクロモビリティ 	<ul style="list-style-type: none"> ■パーク&ライド ■各施設⇔駅・各施設⇔各施設

グループワークの流れ

施策案ごとにチームにわかれて、課題の洗い出しを検討します

ワークの 目的

施策の課題・ハードルを洗い出し、施策実現に向けた現実的な検討を行う

ワークの 前提

自社が主体事業者・共同事業者と仮定して洗い出し

ワークの 進め方

- 自己紹介
- 施策案について、具体化し、チーム内でアイデアの内容について目線合わせ
 - アイデアについて改めて共有・5W1Hなどで具体化
- 自社でこの施策に取り組んでいきたいか
- 実行にあたって検討しなければならない課題を洗い出し
 - 課題だしの観点：顧客接点、リソース（ヒト・モノ・カネ）、事業性（収益/コスト）、座組、技術、法規制
- 解決策を考える
 - 優先順位の高いものに絞る
 - 解決策を考える

NTTドコモ様からご共有 (今年度のMaaS実証について共有)

グループワークの流れ

施策案ごとに、MaaSとの連携方法を模索します

ワークの 目的

施策案ごとにMaaSとの連携方法を模索する

ワークの 前提

社会実装後、機能拡充期に向けて、自由に考えていただく

ワークの 進め方

- 施策を実施するにあたり、MaaSに「どのような機能」が必要か？
- 施策に対して、自社資源をMaaSに掛け合わせた場合、どのようなことができるか？

- 補足の質問
 - MaaS連携を実装するにあたり、課題があればそちらも話してください

